

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第23週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第23週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第23週（令和4年6月6日から令和4年6月12日まで）

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.97人と前週（6.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“気を付けたい感染症～流行性耳下腺炎～” について取り上げました。

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、ムンプスウイルスを原因とし、両側又は片側の耳の下の腫れや痛みを特徴とする全身性感染症です。通常は1～2週間で軽快しますが、髄膜炎や難聴などの合併症を伴うことがあるため、任意接種ではありますが、ワクチン接種による予防が推奨されています。

流行性耳下腺炎は、数年毎に流行する傾向があり、直近では平成28年に大きな流行がみられました。近年は新型コロナウイルス感染症の流行により報告数が減少していましたが、川崎市における報告数は令和4年3月下旬から徐々に増加し、令和4年第23週（6月6日～6月12日）は定点当たり0.11人となりました。今後の流行状況に注意が必要です。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

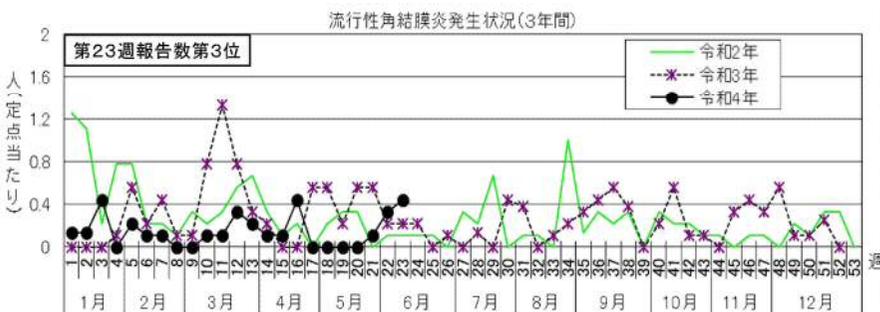
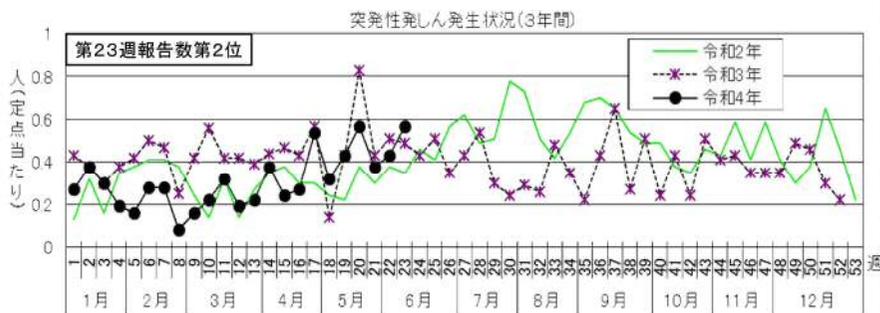
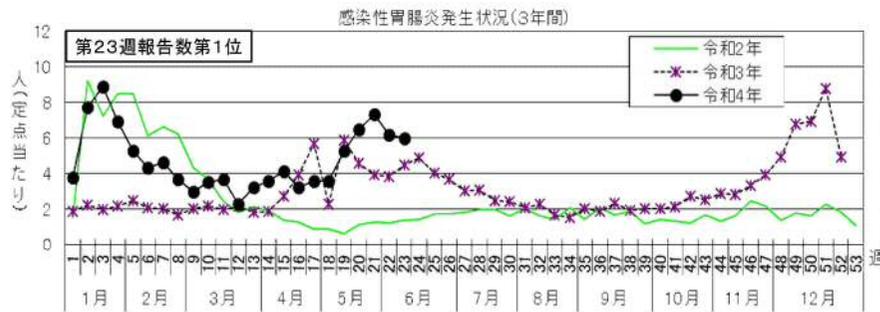
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月6日（月）～令和4年6月12日（日）〔令和4年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.97人と前週（6.16人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週（0.33人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



気を付けたい感染症～流行性耳下腺炎～

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、ムンプスウイルスを原因とし、両側又は片側の耳の下の腫れや痛みを特徴とする全身性感染症です。通常は1～2週間で軽快しますが、髄膜炎や難聴などの合併症を伴うことがあるため、任意接種ではありますが、ワクチン接種による予防が推奨されています。

流行性耳下腺炎は、数年毎に流行する傾向があり、直近では平成28年に大きな流行がみられました。近年は新型コロナウイルス感染症の流行により報告数が減少していましたが、川崎市における報告数は令和4年3月下旬から徐々に増加し、令和4年第23週（6月6日～6月12日）は定点当たり0.11人となりました。今後の流行状況に注意が必要です。

流行性耳下腺炎とは？

- 【感染経路】
唾液などによる飛沫、接触感染
- 【潜伏期間】
2～3週間（平均18日前後）
- 【主な症状】
両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱
※感染しても症状の出ない人（不顕性感染）が30％程度
- 【合併症】
無菌性髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴
※特に妊婦では感染すると自然流産することもあり



流行性耳下腺炎と難聴について

流行性耳下腺炎の合併症であるムンプス難聴は、1000人に1人の割合で見られます。難聴は治療が難しく、平成27年から平成28年には少なくとも348人が難聴になり、300人近くの方に後遺症が残ったと報告されています。

川崎市における流行性耳下腺炎の発生状況 ～平成24年第1週～令和4年第23週～

